



ICD (International Colour Day) 2022

日本色彩学会は「第4回インターナショナル・カラー・デイ (ICD)」を開催します。

詳細は下記をご覧ください。

<https://forms.gle/QtKiT9EGq5KPZ1fS6>

◆開催日時：2022年3月21日(月・祝)

13時～16時 ※オンライン開催

◆参加費】日本色彩学会員：2,000円、
非会員：2,500円

<https://color-science.jp/ICD2022/>

◆申込方法：下記申込フォームより必要事項
を入力のうえご応募下さい。

◆開催内容

- ・第4回 ICD 開催の挨拶 篠田博之
- ・ICD 趣旨説明と各国の取組み 片山一郎
- ・『Most Impressive Color 2021』授賞式

◆ICD 特別企画：『生活者と色彩』

- ・講演1 『ファッションと色彩～コレクション
トレンドカラー最前線～』

藤岡篤子 (ファッションジャーナリスト /
fプロジェクト代表)

- ・講演2 『生活者の気分とマーケット動向
～with コロナ, アフターコロナを想定した
暮らしについての傾向～』

小原直花 (伊藤忠ファッションシステム)
(学会メールニュース No.293 から引用 永田泰弘)

●回転混色 ベンハムの独楽

ベンハムのコマは1894年にイングランド
の新聞記者で玩具開発者チャールズ・ベンハ
ムが開発し、翌年「人工スペクトルごま
Artificial spectrum top」として発売した玩
具である。

無彩色の回転盤だが、回転させると有彩色
に知覚される「主観色 Subjektive Farben」
現象は、1838年にドイツの物理学者グスタ
フ・フェヒナーにより命名された(英語では
Fechner color と呼ばれる)。

20世紀美術のオブ・アートの分野でも度々
参照される。図柄・回転速度・観察者により
知覚される色彩は異なるが、特に回転方向に
より知覚される色彩が異なる理由は、現代で
も判明していない。(山根千明)



◆回転混色に関するご希望や、疑問点、体験情報、素
材の情報などの投稿を募集しています。(永田)

色彩教材研・オンライン講座聴講者募集

第5回色彩教材研究会オンライン講座の
聴講者を募集しています。必要な教材です。

◆主題：「錯視と色彩」

◆講師：北岡明佳(きたおか・あきよし)氏
立命館大学総合心理学部教授。

◆日時：2022年3月19日(土)

13:30～15:00 (ZOOMのオンライン)

◆申込は、下記よりご登録下さい。

<https://forms.gle/5XhjGZkZr5T2ecqR7>

◆参加料：学会員と研究会準会員は無料。

◆講演要旨：本講演では、色の錯視を検討す
ることで、色彩を考える。通常、混色を錯視
とは言わないが、並置混色であればいくらか
錯視的であろうか。並置混色は加法混色だけ
であると考え人が多いと思うが、減法混色
もあるし、それと加法混色を接続する中間的
な並置混色もあることを示す。さらに、それ
らとムンカー錯視との関係を明らかにし、並
置混色の中に加算的色変換による色の錯視
(強力な色の対比の錯視あるいは色の恒常性
の錯視)を実装できることを示す。

◆お申し込み済みの方は、上記の時間に忘れ
ずにご入場ください。書物では体験出来ない
錯視現象の理解を深めることができます。
(永田泰弘)